

山岳スキー競技とは

日本山岳協会 国際部

山岳スキー競技とは、登り時には踵がフリーになり、下り時に踵が固定されるタイプのビンディングを使用するスキー 一般的に言う山スキーを利用し、雪山に15-25キロ程度の回遊コースを設定して時間を競う競技である。

山スキーは日本でも冬の山行形態の一つとして根強い人気があるが、ヨーロッパではアルプスの国境警備を任務とする山岳部隊の山スキー訓練をもとにしてレースがおこなわれ、ミリタリーパトロールなどの名称で競技として長い歴史を持つ。

右のポスターは、そうした大会の中でも伝統を誇るヨーロッパアルプスを縦断する国際大会ピエラメンタのもの

冬季オリンピック種目への挑戦

実際、山岳スキー競技は、1924年シャモニーで開かれた第1回冬季オリンピックから48年大会まで4回、ミリタリーパトロールとして種目化されていた。

1990年代に入り、山岳スキー競技としてより組織化され、1999年国際山岳連盟 UIAA の下部組織・国際山岳スキー競技連盟 (ISMC) として発足し競技体系として整備された。以来、各大陸別選手権大会や世界選手権大会、ワールドカップシリーズなど国際大会が世界各国で開催され、2005年末現在、加盟国は27か国32団体が加盟するまでになった。

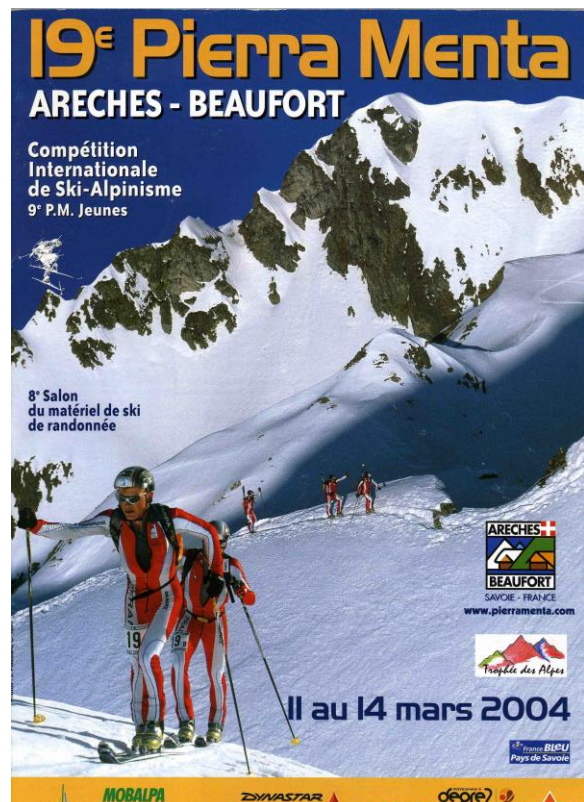
加盟国は、ヨーロッパだけでなく、北米、南米（アルゼンチン、チリ等）

アフリカ（モロッコ）にもまたがっている。アジアでは、現在 日本に加え中国、韓国、イランが加盟している。

現在国際連盟では、冬季オリンピック種目として採用されるべく活動を強化しており、すでに一度オリンピック種目であった事もあり近い将来のオリンピック競技化の可能性は大きい。

（国際山岳連盟 UIAA のホームページの中にある）

競技は、基本的に 10-25 km 程度の距離に標高差 300-800 m の斜面を3-5回シール（スキーでの登りを可能にする薄い毛皮状の帯で滑走面に貼り付ける）をつけて登り、シールをはずして滑降り合計タイムを競う競技である。



時間はだいたい2-3時間くらいになるようコース設定がなされる。

男女 ジュニア、成人、チーム、などのカテゴリーに分けて競技がおこなわれ。国際レースになると200名以上の選手が参加する。ヨーロッパアルプス周辺国では16歳の少年から男女成人選手から構成されるナショナルチームが結成され選手強化もさかんである。中高年男女まで幅広い層の人々が参加する市民大会形式も普及している。



すでにアメリカで普及の兆しを見せており、本年3月19日ユタ州で大きな大会が開かれた。この大会は今年からワールドカップレースの一戦として公認され、地元愛好家だけでなく各国のトップ選手を集め、この競技の世界への広がりをも改めて認識させた。

日本での競技の将来性

バックカントリースキーが注目される時代になり、競技場やスキー場内だけでなく美しい冬の大自然のなかで展開される新しいスポーツとして日本でも注目が集まると思われる。2004年3月スペインピレネー山脈のスキーリゾートで開催された第2回山岳スキー競技世界選手権大会さらに、2006年2月にイタリアで第3回世界選手権大会が開かれ、日本山岳協会は選手4名を派遣した。

2006年4月16日 前年に続き、日本で2回目の国際連盟規格の山岳スキー競技大会山岳スキー競技日本選手権大会が別紙開催要項の通り開かれる。

この大会には、韓国、中国から選手が集まり実質的にアジア初の山岳スキー競技国際大会としての性格を持つ。来年度には国際連盟公認第1回アジア選手権大会実施することを目指している。

国際山岳スキー競技連盟でも今回の大会に大変注目しており、来年度日本で公認国際大会が開催されるとオセアニアを除く世界の4大陸すべてで国際大会が開かれたことになり、オリンピック種目化への道が一步進むことになる。